

## 〔専門医による講話〕

### 1 テーマ 「がん教育講話

自分のため、そして大切な人を支えるために  
～がんの必要な知識と心構え～

### 2 対 象 全校生、教職員

### 3 専門医 奥山 慎一郎 医師

(訪問診療クリニックやまがた)

### 4 実施月 11 月

### 5 内 容(キーワード)

がん罹患の現状、がんの原因、がん検診の大切さ  
がんの治療法、個々の価値観の尊重と関わり方



## 評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

### ①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

( )有効だった

( )課題が残った

<その理由>

\*講話の目的として、生徒に健康について合理的、計画的な解決に向けて考えて判断する力を養わせたいとした。個々の価値観を尊重する大切さを学び、自分や大切な人が当事者になったときに何ができるのかを具体的に考える貴重な機会となった。

### ②保健教育における校内連携について

(○)とても有効だった

( )有効だった

( )課題が残った

<その理由>

\*1年の保健の授業で、がんの予防と回復という単元を学習した後に講話を実施した。講話では、性別・年代別のがん罹患数のデータを示していただき、HPV ワクチン接種やがん検診の必要性など改めて理解することができた。

### ③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

( )有効だった

( )課題が残った

<その理由>

\*講師の先生とは、事前打ち合わせシートを活用し、生徒の実態、講話の目的、関連教科で生徒が事前に学んでいること、必要物品の確認など行った。配慮が必要な生徒の調査も行い、当日対応できるよう体制をとった。

## 〔受講者の感想など〕

○大切な人の残された時間が限られているとき、自分は何もできないと思ったが、何もしなくても顔を見せるだけでもいいと言っていたことが印象に残った。

○治療法が進化し、その人に合ったオーダーメイドの治療ができることに希望を持てた。

## 〔教科やその他の指導との関連性〕

○1年保健：がんの予防と回復

その他の指導：情報リテラシー

